



福谷章子のまちづくり通信

2011年7月号（平成23年7月19日発行）

編集・発行 千葉市議会議員 福谷章子

〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野3丁目40-8 河野ビル213号

tel&fax 043-312-2903

e-mail: fukutani2903@gmail.com

ホームページ: http://fukutani-office.com

ブログ: http://fukutani.blog.ocn.ne.jp

ツイッター: http://twitter.com/shoukosan

今、市民の力が必要とされている！決定「千葉市新基本計画」

基本計画を新たに作ったものの、その上位の基本構想は変わっていません。従って、まちづくりの方向性が今までと大きく変わったわけではないのです。しかし、社会が集約していくことを認識し、激しい変化に対応できるよう計画期間を縮小して10年間とし、そして策定にさまざまな市民参加の手法を取り入れたことは時代の流れに即しており、評価できる点です。

評価できる点！

その1. 計画の決定に様々な市民の意見を吸い上げたこと！

新基本計画の策定に当たっては、タウンミーティング、座談会、シンポジウム、ワークショップ、インタビュー、懇談会、アンケートという、あらゆる手法で市民の意見を吸い上げ、計画づくりにかかわった主体も、中高生から大人、有識者、企業、団体、など様々でした。そして、40人の委員からなる千葉市新基本計画審議会は公募の委員、専門家、組織代表などの異なる主体で構成され、また部会に分かれて熱心な議論がなされ、答申が出されました。

このように、策定の経過に多くの市民を巻き込んだことは、貴重な実績です。

その2. 各区の独自のまちづくりの方向性が示されたこと！

本計画では、五つのまちづくりの方向性を示し、それらを推進するために「まちづくりを支える力」として、さまざまな主体が連携して織りなすまちづくりの底力をしっかり位置づけています。また、区基本計画は、各区の区民検討会で話し合われ、今までの統一的なものから、それぞれの区の特性が活かされた計画となっており、今後の区への役割り移行の布石となるものであり、区への分権を志向してほしいと思います。緑区では既に独自のまちづくり提案事業が始まっています。市民が主体となって企画する事業で、認可された中には、たとえば【外国人の子どもたちに日本語を教える】、【自転車と歩行者の棲み分けのために路面表示をする】、【まちづくりフォーラムを開催】、【子どもたちに文庫を開く】事業が動いています。詳しくは緑区HPをご覧ください。[緑区役所 千葉](#) で検索！

震災対応について

本計画策定の終盤においては、東日本大震災が起き、地震のみならず、津波被害、放射能被害、加えて風評被害も相俟って、地域の問題のみならず、人間社会としての困難に遭遇しています。千葉市においても、液状化による被害や、放射能汚染への不安感など、解決すべき事柄が山積していますが、それらの課題についても、盛り込まれました。



ご意見募集！

市政について、議会について、日頃の生活で気づいたことなど、みなさんのご意見をお待ちしております。

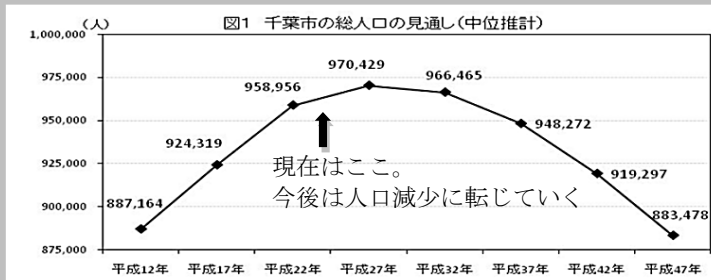
Te l & Fa x 043-312-2903

Ma i l f u k u t a n i 2 9 0 3 @ g m a i l . c o m

▶やっぱり厳しい千葉市の現況

千葉市人口動態等基礎調査報告書によると、千葉市の将来人口は、平成27年に約97万人に達した後に、減少に転じる見込みとなっています。さらに、少子超高齢化が加速することにより、生産年齢人口が減少します。その結果、経済規模は縮小し、都市構造も集約されていくことは必定です。また、今後の人口見通しとともに、財政状況の厳しい現状が続いています。

拡大社会をあたりまえとし、大きく、速く、大量にという価値こそが発展の証と思いこんできた私たちは、いまだかつて経験したことのない社会構造の中で、豊かな未来を創造する必要に迫られているのです。では、これからの豊かさとは何でしょうか？



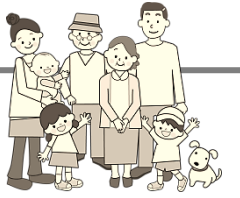
▶こどもも大人も地域社会の一員として

つまり、あれもこれもが許された時代から、あれかこれかという選択を余儀なくされるわけで、対立する利害の関係者を巻き込み、納得のもとに何事も決定していくという力を一人ひとりがもつことが求められているのです。新基本計画の、「わたしから！未来へつなぐまちづくり」としたまちづくりのコンセプトは、市民一人ひとりの気づきに基づいて、分権型社会を築いていこうとするもので、共感がもてます。しかしながら、そのためには市民意識の醸成が何よりも大切であり、こどもから大人まで、地域や社会の一員として参画を促していくことが必要です。たとえば、街路樹の剪定一つをとっても意見は様々で、住民が主体的に話し合い市に提案し、事業をコントロールする流れがすでに生まれています。

▶議会がやるべきことは？

一方、議会においても、新基本計画等策定調査特別委員会を設置し、議論を重ね、議会としての意見を計画に反映させてきました。震災後の差し迫った状況においては、3月に開催されるはずであった特別委員会が開催されず、議会として審議が十分に尽くせていないのでは、という懸念もありましたが、6月の特別委員会において、審議は尽くされたものと考えます。今後千葉市が、自治分権の都市として歩んでいくためには、二元代表制の一翼を担う議会の役割は大きいものです。新基本計画の進行管理に関しては、実は具体的になっていないので、実現に向けて議会がしっかりチェックしていきたいと考えています。

～緑区まちづくり～



【青少年育成委員会】

昭和36年に青少年補導委員会としてスタートし、市内56中学校区の全てに設置されています。市からは、運営費と生徒一人当たりで換算した補助金が出ており、地域における青少年のための環境改善や、居場所づくり、啓発、関係団体の連絡調整などを行っています。活動はさまざまですが、市の補助金だけでは当然のことながら活動はままならず、他団体の力を借りたり、参加費を徴収したり、協賛を集めたりと活動費のねん出に工夫している団体もあります。

最も新しいのは、おゆみ野南中学校区青少年育成委員会で、4月の開校を受けて、6月26日にスタートしました。総会には、71人の委員のうち66名が出席。子どもたちのために地域を耕していこうという熱い思いが充満していました。歴史の長い委員会は活動や体制の見直しに迫られ、新しいところは存在や役割を地域に浸透させるという課題があります。青少年の問題は子育てのイロハに根差していると言っても過言ではないだけに、青少年育成委員会として地域でどのような役割が担えるか、そして他団体とどんな連携を図るかが、今後の大きな課題です。



6/19 おゆみ野南中学校区
青少年育成委員会設立総会

【コミュニティづくり懇談会】

▶そもそもの必要性

コミュニティづくり懇談会（以下こみこん）は昭和40年代に、「地域コミュニティを振興するためには、町内自治会、文化団体、スポーツ団体等の各団体の横断的な連携が必要であることから、団体相互の交流を深め、団体間の話し合いの中から、お互いの理解と合意のもとに街づくりを進める」との考えから、概ね中学校区（自治会地区連絡協議会の区域）を単位に、市が設立したものです。

「地域における諸団体間のネットワークを強化し、有機的な活動促進を図ることにより、強固な地域コミュニティの醸成を図る」ことを目指しています。

▶現状を見つめ今後を探れば・・・

こみこんは、平成20年度は32団体ありましたが現在は28団体で、その内訳は、中央区5、花見川区3、稲毛区3、若葉区5、緑区2、美浜区10となっています。緑区の2団体は、椎名地区とおゆみ野地区です。市からは1団体あたり5万円の運営補助金が出ています。

まちづくりに関わる組織は数多ありますが、連携がうまくできないことが課題となっている昨今、こみこんを情報交換や課題解決、新たな地域構想づくりの意思形成の場とすることは、その成り立ちからも可能ではないかと考えます。

しかしながら、事業展開をすることに力が注がれ、本来の目的であった地域課題の発見やその解決のための話し合いの機会が持てなかったり、そういう場を運営する技術が備わっていなかったり、本来の目的が達成されず、団体数も減少しているのではないかと考えられます。市の体制も、【こみこん】→市民局が、【市民自治の推進】→総合政策局が担当しています。今後は、市民にも行政にも連携とコーディネート力が求められます。

▶住民主体で見直しの機運

さて、おゆみ野地区コミュニティづくり懇談会では、より良いまちづくりのためにはどんなことをすべきなのか、組織や活動の見直しを始めました。6月12日の全体会で様々な意見が出され、その後、常任理事、理事の選出が行われ、積極的に手挙げをするという方法で、新たな理事会体制ができました。今年1年間にはコミュニティづくり懇談会のあり方について、地域のみなさんとともに検討していくことになりました。

～議会活動～

●第2回定例会（6月議会）6月9日～24日

最終日に、会派未来創造ちばを代表して、討論を行いました。

●「議会のあり方」検討協議会

すでに3回の議論があり、1回目は【議会改革にどう取り組むか】、2回目は【あるべき議員像とは】、そして3回目には【基本理念について】話し合いました。今回の議会改革は約2年間で結論を出そうとするものですが、政治哲学的な議論から報酬をどうこうという議論まで、すそ野広く行われています。毎月2回のペースで開催しております。傍聴にお出かけください。今後の予定は、7月22日10時～、8月8日13時～、8月23日13時～です。

●会派研修 6月28日～29日

一人ひとりの議員の考えを共有し、議会や会派のあり方について議論をしながら、今後の方向性を探りました。

●千葉市少年自然の家事業運営協議会 7月6日

少年自然の家の22年度の事業報告と23年度の業務計画について協議をしました。

●会派視察 7月12日～14日

宝塚市、鳥羽市議会・三重県議会・四日市市議会にて、議会改革を中心に調査をします。

●常任委員会視察 7月25日～27日

秋田市、盛岡市。秋田市では市庁舎建て替え市民協働の推進について。盛岡市では地域SNS、行財政構造改革、協働推進についての調査をします。

～ライフワーク～

【土いじりで大人も子どももリフレッシュ】

プレイファーム！この言葉を聞いただけでワクワクしませんか。農作業をする大人の傍らで子どもたちが畑で遊びまわる。



福谷 田植え中

もちろん、叱られることもあれば、お手伝いをし褒められることもある。時には草を抜いたり芽かきをした野菜は何よりも美味しいはず。畑には作物だけではなく、虫や鳥も入れ替わり立ち替わり現れて、遊び相手にはことかかない……。そんな場面をイメージして少しずつ進めてきた。プレイファームは今や、野菜畑長屋、大量生産系畑、梅の木畑、開墾実験田んぼ、ハーブ園と広がりました。

6月は、ジャガイモの収穫祭を行いました。もちろん、草取り作業も同時進行です。土いじりや作物の生育に触れながら、食べることや農業を身近に感じてほしいと思っています。プレイファームの会の立ち上げを考えています。関心のある方は、事務所までお問い合わせください。

次回は7月23日。草取りと夏野菜の収穫&バーベキューです。

～トピックス～

【あなたのバス停は使いやすいですか？】

バスは自宅と目的地を直接結び、特に高齢者や子ども連れには便利な交通手段です。千葉市では市営のバスが無く、バス事業は全て事業者任せになっています。そんな状況でバス停の利便性について指摘がありました。そこで調査をしてみると、バス停には上屋やベンチ付きの立派なものから、雑草の中に停留所の支柱だけが建ててあるものまでさまざまでした。乗降時の安全確保のために一部のバス停は市と協議の上改善をしました。

さて、バス停を設置するのは誰でしょうか。バス事業者、広告目的とした企業、開発事業者など様々のようです。誰が設置するにしても、市としては足元のバリアフリーや幅の確保など、一定の基準をもつ必要であると考えます。

